

# 網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.116  
2024.9



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori \* 網張の森の生き物たち \* amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

## 黒光っていた“チャイロスズメバチ”の女王

いつまでも暑い日が続いた8月も過ぎ、少しずつ澄んだ空気が変わり始めたある日、ミズナラの根元にいたチャイロスズメバチに出会いました。せわしなく動き回っている個体がいることで、何かがあることがようやくわかる程に根元の薄暗さに同化していました。根元の窪みの一部は黒く湿っていて、どうやら樹液が染み出していたようです。ハチたちはこれまで目にしてきた黄色と黒色の縞模様ではなく、頭や胸周辺がチョコレート色です。見るからに頑丈そうな体と大きさから「あまり近寄らないようにしよう…」と遠巻きに撮影することにしました。2cm前後のハチが数匹いる中で、体がひと回り大きくヘルメットでも被っているかのような大きな頭部、薄暗い中でも腹部が黒光りした女王バチらしきハチが存在感を放っていました。このハチはキイロスズメバチなどの作り始めの巣を乗っ取るのが特徴で、頑丈な体は多少の攻撃にも平気な上、攻撃で触れられた“匂い”を体につけることで狙った巣に入り込み、やがて全てのハチがチャイロスズメバチに入れ替わってしまうとのこと。「どうりで硬そうな体をしている訳だ…」。そっと近づくとそれに一早く気づいたハチがこちらを見始めたので、静かにその場を後にしました。近づきたいのにそれが叶わない…いきものとの距離感を考える機会となりました。

What is  
“Chairosuzumebachi”?  
「社会寄生性のスズメバチ」

スズメバチ科  
体長：約 17~24mm  
(女王バチ：約 30mm)  
分布：北海道~本州

個体数が少なく、生息地は日本海側に多いとされていたが、それ以外でも報告例が出ている。他のスズメバチの若い巣を乗っ取るが、自力でも営巣できる。網張周辺では2ヶ所で生息を確認している。

(参考図書：「おどろきのスズメバチ」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

光 と 色 の  
いろいろ  
No. 3

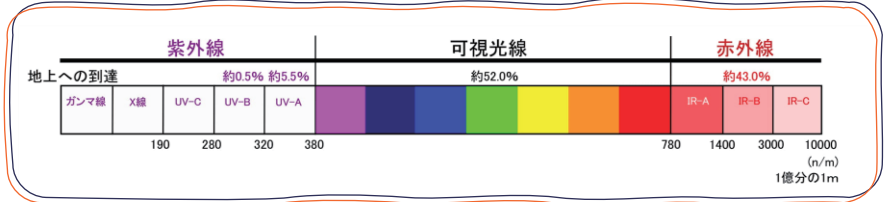
昆虫の複眼と人間のレンズ眼（単眼）は、構造と機能において大きな違いがあります。複眼は個眼がハチの巣のように集まった状態で、トンボには約2万個、ハエには約4,000個の個眼があるそうです。各個眼が1つの画素のように機能し全体を捉え、広い視野と高い動体視力が特徴です。画像解像度は低いですが、時間分解能に秀でているため、昆虫からすると人間の動きはゆっくりに見えているようです。



アキアカネ

昆虫のしている世界は人間とは異なり、紫外線を含む色で構成されている。

昆虫は広範囲の波長を感知する事ができ、青色や緑色に加え紫外線にも敏感です。赤色を読み取る事ができるのは、アゲハチョウなど一部のチョウに限られるといえます。



ゲンノショウコ



昆虫の視界（イメージ）

昆虫の多くは、「青」「緑」「紫外線」の3種類の視細胞を持っていますが、アゲハチョウの場合は「赤紫」と「青紫」も加わります。赤い花にはチョウ以外の昆虫も匂いや紫外線の模様を頼りに集まってくるりますが、赤系の花が多いツツジ科は、長い口吻を持つチョウのような昆虫が蜜を吸うのに都合の良い花の構造をしており、植物と昆虫の共生関係が花の色にも関係している事が伺えます。昆虫がどのように世界を見ているのかは、紫外線を捉えるカメラによってある程度解明されていますが、彼らを感じ取る色彩や視覚の全体像は、今もなお人間にとって謎のままです。私たちが見ている世界が、絶対で揺るぎないものとは限らないのかもしれないかもしれません。

参考図書：浅間 茂『虫や鳥が見ている世界』 森 昭彦『身近なムシのびっくり新常識 100』



**クマタカ** 科名：タカ科  
 全長：雄約72cm 雌約80cm  
 生態：留鳥  
 分布：全国

網張からもほど近い滝ノ上温泉の崖で、今夏クマタカの営巣が確認されました。猛禽類は広いテリトリーを持つため、ありね山荘周辺の草地（芳沢牧野）や網張温泉スキー場ゲレンデ等は良い狩場になっているのかもしれない。

ワシやタカの仲間は、1,000メートル以上離れた小さな獲物も見つける事ができるそうです。

その秘密は網膜に多くの視細胞、特に錐体細胞を持っている点にあり、視力は人間のおよそ4～8倍にもなるといいます。また、物を識別する能力にも優れ、「赤」「青」「緑」に加えて「紫外線」まで感知できるそうです。

広い視野を持ちながら獲物に正確に焦点を合わせることができるため、捕食される生き物にとっては非常に脅威です。ノウサギやヘビ類、カケスやヤマドリに限らず、森林や林縁部に生息する生きものほとんどが捕食対象となり、生態系ピラミッドの頂点に位置する存在です。



おかげさまで今年度、開設 20 年目を迎えます！

# スタッフの目から見た網張ビジターセンターの20年

大堀 拓 (元網張ビジターセンター主任解説員)

## 第三話 『雨が降ろうが槍が降ろうが？ 自然ふれあい行事は大変です』

網張ビジターセンターが開館した当時、定期的に自然ふれあい行事を行っているところはまだ少なく、滝沢森林公園ネイチャーセンターはその数少ない施設の一つで、自然観察の技法を学びによく訪れました。そこで言われたのが「槍が降ってこない限り自然ふれあい行事はやれる！」。対象となる自然の春夏秋冬、雨なら雨、雪なら雪の中で観察すればその都度、新たな発見があるという訳です。網張ビジターセンターは、これを地で行くような凄まじい行事計画でスタートしました。網張を東北の自然ふれあい活動の拠点にするという当時の環境省の方針もあって年間で自然観察会 25 回、ミニ観察会 62 回、早朝観察会 6 回、ナイトハイク 6 回を行う、単純計算でいくと 2 名の解説員で 3.5 日毎に 1 行事をこなしていくというもの。外部からの依頼行事や日常の館内解説と施設維持業務をやった上での話です。

「自然ふれあい行事」をやったことのある人ならわかるのですが、①テーマ・日程・場所の選定に始まり②講師依頼（自分たちが解説者になるケースも）③参加者募集（全く集まらなかったり、逆に定員オーバーになったり）④コースの下見⑤行事用パンフレット作成⑥解説内容を考えて⑦天気予報に一喜一憂⑧行事本番（解説したり事故防止にやきもき）⑨終わって後片付けと感想をまとめると心身共にクタクタという繰り返し。それでも素晴らしい自然との出会いや参加者の感動の声を思い出すと、ジワッと満足感がこみ上げてくるのです。実施場所は岩手山から秋田駒ヶ岳・三ツ石山・鞍掛山と広範囲ですが、行事の中心は一貫して網張の森にありました。同じ森で季節を変えて感じる、対象を変えて見る（鳥・虫・花・キノコ・・・）、アプローチを変えて味わう（森林浴・写真・スケッチ・クラフト・俳句・・・）ことで総合的に自然とふれあえるよう工夫しました。まだ広く普及していなかったスノーシューを



用いた自然観察会を行うことで冬期でも国立公園の魅力を楽しめるようになりました。登山道が無く、ほとんど知られてなかった鎌倉森も冬の行事を続けた結果、今では多くの方が訪れる人気の冬山に変わりました。

網張ならではの行事といえば開館時から現在まで続いている市民火山教室。「一般市民の方に正確な火山の知識を広げていきたい」という講師の土井先生の熱意に支えられて今年で 23 回目、国立公園の中核をなす火山地形や火山現象を観察し続けています。網張の森コウモリ観察会は故向山先生の指導を「コウモリの保護を考える会」が引き継ぎ貴重な森林性コウモリの生態を子どもたちに伝えてきました。この地域の自然景観を背景に成立した宮澤賢治の文芸作品を現地で鑑賞する「岩手山麓宮澤賢治足跡体験ツアー」は地元の故関先生の指導で企画され多くの賢治ファンが参加しました。星空観察会は盛岡市子ども科学館や小岩井農場まきば園の応援で始まり、現在はアマチュア天文家が星の案内をしてくれています。昆虫ライトトラップは「岩手虫の会」の三井さんの全面協力で可能となりました。「輪カンジキ」や「ワラ草履」等を製作する



クラフト教室も地域に根差した「ふれあい行事」をやりたいというスタッフの願いが地元の支援で実現しました。最近では次世代へ自然保護を継承するために「親子の自然体験」で地元の炭を使った土鍋炊飯や草笛作りに取り組みんだり、誰でも気軽に参加できる「ミニ企画」に力を入れています。当初は「なんでもかんでも解説しなければ」と肩に力が入っていたスタッフも今では「参加した人が、それぞれ何かに気づいて発見してくれればいいね」と一緒に行事を楽しむ姿勢に変わってきたように私には感じられます。



クラフト教室も地域に根差した「ふれあい行事」をやりたいというスタッフの願いが地元の支援で実現しました。

最近では次世代へ自然保護を継承するために「親子の自然体験」で地元の炭を使った土鍋炊飯や草笛作りに取り組みんだり、誰でも気軽に参加できる「ミニ企画」に力を入れています。

当初は「なんでもかんでも解説しなければ」と肩に力が入っていたスタッフも今では「参加した人が、それぞれ何かに気づいて発見してくれればいいね」と一緒に行事を楽しむ姿勢に変わってきたように私には感じられます。



## 「盛岡管理事務所に着任いたしました」

環境省 国立公園管理官 やすの いく さん

2024 年 9 月より、前任の塩野に代わり十和田八幡平国立公園管理事務所盛岡管理官事務所に着任した安野と申します。前任地は静岡県の下田市で、富士箱根伊豆国立公園のうち伊豆半島地域（伊豆半島の海岸と天城山系が国立公園になっています。）の国立公園管理が仕事でした。

私の出身地は宮城県で、実は、小学校の頃 4 年間は盛岡に住んでいたこともありました。約 15 年ぶりに岩手県に戻ってきて、とても懐かしく、またここで仕事ができることがとても嬉しいです。まだ着任して 1 週間ですが、すでに岩手山・八幡平に広がる多くの素晴らしい自然を見て感動しています。こうした自然は地域の皆さんが大切に守ってきたからこそ残っているものと思います。環境省としての仕事を通して、こうした自然を守りつつ、その魅力を発信できるよう頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。



お断わり：「網張の森 定点観察」はお休みします。

(写真提供：岩手山地区パークボランティア)

### 国立公園で楽しむ親子の自然体験

#### 8/3 「夏休み！親子で楽しむだて先生の昆虫観察」



参加者が次々に見つける昆虫を丁寧に解説いただきました。ミヤマクワガタなども観察。「暑さの厳しい時期は小さな昆虫にとって耐える季節」という話もありました。総勢 26 名

#### 8/25 「草花があそび道具に変身！～いろんな草笛を奏でてみよう♪」



エノコログサのキジ笛、ドングリの袴笛、オオイタダリの節笛とリード笛など今回は笛を中心に草花あそび。「ブーッ」や「ピーッ」など様々な音を奏でて楽しみました。総勢 19 名

#### 9/8 「おかわりしたくなる！炭火炊飯体験」



炭はどうやって作るのか実演を交えたお話を伺った後、炭焼き作業を体験。七厘で炭火をおこし、土鍋で炊いたご飯はふっくら美味しく、おかわりしてたくさん食べました。総勢 23 名

#### ～網張ビジターセンター開設20周年記念行事～

#### 7/27 「よるの森をのぞいてみよう！コウモリ調査体験と昆虫ライトトラップ」

雨天が続く、天候の回復が望めなかったため残念ですが中止となりました。

### ◆◆ 依頼行事 ◆◆

#### 8/2 岩手県市町村職員健康福利機構 夏休み親子プラン「網張の森わくわくトレッキング」



網張の森の散策、網張VCオリジナルキットを用いて樹高測定、散策で見つけた草花や木の実などを貼り付けたカラフルな「しおり作り」など、親子で盛りだくさんの体験を楽しみました。31 名参加。

#### 8/19 滝沢市睦大学館内解説

年に数回網張の森で観察会を行っている滝沢市の睦大学の皆さん。今回は岩手山について理解を深めていただきました。



#### 8/29 雫石町首都圏大学インターンシップ



雫石町のキャリアデザインプログラムに参加した5人の大学生。網張では網張の森を歩き現状を把握し、森の魅力向上のためのアイデア立案に取り組みました。学生からは音声ガイドやスタンプラリー、消費カロリーの目安の提示等様々なアイデアが出されました。

#### 9/11・9/13 滝沢市立滝沢第二小学校 校外学習「岩手山と自然のめぐみ」

岩手山と私たちの暮らしとの関わり、自然の豊かさや不思議なこと、魅力等を経験豊富なボランティアの皆さんの話も伺いながら見て触れて体感しました。5年生2クラス 73 名



#### 9/1～10/31 特別企画「網張ビジターセンター開設20周年記念企画展」開催中！



皆さまのご支援のもとに歩んできた20年間の軌跡を振り返りました。懐かしい展示物や行事写真も展示しています。

## インフォメーション

### 国立公園で楽しむ親子の自然体験

10/5(土) 『登山ガイドと登る、うさぎ平トレッキング』  
9:30～13:30 網張ビジターセンター集合  
講師：上村 聡 氏(日本山岳ガイド協会認定ガイド)  
(岩手県自然公園保護管理員)  
定員：親子7組15名 ※要事前予約  
参加料：大人800円 中学生以下400円

### ～網張ビジターセンター開設20周年記念行事～

#### 10/20(日) 『紅葉の森さんぽ&たき火体験』

9:30～12:00 網張ビジターセンター集合  
定員：10名 ※要事前予約  
参加料：大人800円 小学生以下400円

#### 11/2(土) 森のクラフト体験

『小刀でカトラリーを作ろう!』  
9:30～11:30 網張ビジターセンター集合  
定員：7名 ※要事前予約  
参加料：一人800円(材料費込)

### ～現在開催中のビジターセンター企画展～

9月1日(日)～9月30日(月)

#### ～猿橋 由貴子 写真展～

### 『Feel Nature』



自然風景や野鳥、植物の写真でほっと一息癒やしを感じる写真を！をコンセプトに写真を撮影しています。撮影中に感じた自然のすばらしさを、皆さんに感じていただけたら幸いです。  
- 出展者の言葉より -

### ～来月開催のビジターセンター企画展～

10月1日(火)～10月31日(木)

#### ～Photo Top Note “nature部” 写真展～

### 『Feel Nature 2』

十和田八幡平国立公園

や近郊の風景・動植物写真

作品を展示します。美しい

自然風景を数多く擁

する岩手の魅力を私達の

写真を通じてたくさんの

方に感じていただけたら幸いです。



- 出展者の言葉より -

## モモンガのつぶやき

キャンプ場の林間サイトで、立派なヤマアマガエルに出会いました。最初は驚いて飛び跳ねましたが、その後は静かに佇んでいました。

よく見ると、お腹は呼吸に合わせて収縮しています。そっとカメラを向け、きれいな目やなあごの斑点もアップで撮影する事ができました。これまで数々の試練を乗り越えてきた貴緑が、その姿から感じられました。(K.H)



## 十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 7月 1,507人 ◆ 8月 1,694人  
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 7月 16.9℃ ◆ 8月 18.8℃

### 発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail [amihari@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:amihari@vanilla.ocn.ne.jp)

開館 夏期 (4月から10月末まで) 休館日なし 9時～17時